

平成30年度  
第2回大野市総合教育会議  
会議録

日 時：平成31年2月21日（木）午後1時30分～2時50分

場 所：結とびあ 301号室

# 大野市総合教育会議

日時:平成 31 年 2 月 21 日(木)

午後 1 時 30 分～

場所:結とびあ 301 号室

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 小・中学校におけるいじめ、不登校防止対策について

(2) 教職員の働き方改革について

(3) その他

4 閉会

<出席者>

市長	石山志保	
教育長	久保俊岳	
教育長職務代理者	洞口幸夫	
教育委員	清水美那子	
教育委員	關園子	
教育委員	麻生博之	
事務局	政策局長	清水啓司
	結の故郷創生室長	真田正幸
	民生環境部長	坂井八千代
	福祉こども課長	山田徹夫
	教育委員会事務局長	山田靖子
	教育総務課長	横田晃弘
	学校教育審議監	千田佐
	生涯学習課長	中村吉孝
	〃 課文化振興室長	中村りえ子
	〃 課スポーツ振興室長	多田直人
	教育総務課企画主査	竹田雄次

<傍聴者>

2人

## 1 開会

【教育総務課長】ただ今から、本年度第2回の大野市総合教育会議を開会する。

総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して教育行政の推進を図ることを目的に設置されたもので、会議の構成員は地方公共団体の長と教育委員会と定められている。本日の会議は、大野市総合教育会議設置要項に定める所掌事務の「教育の諸条件の整備その他の教育の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議」に該当する。

全国的に増加傾向にある小中学校におけるいじめ、不登校防止対策、国における働き方改革の一環としての教職員の働き方改革について、意見交換を行うことを目的に開催するものである。

——<市民憲章・教育理念の唱和>——

## 2 市長あいさつ

【市長】お忙しい中、ご参加いただき感謝申し上げます。また、日ごろ子どもたちの教育、発達、生涯教育の推進、文化芸術、スポーツの振興に多大なるご尽力をいただいていることについても併せて感謝申し上げます。本日の会議は、いじめ、不登校、教職員の働き方改革等を協議事項としている。全国的に総合教育会議が立ち上げられるきっかけとなったのが、いじめ問題であり、一度基本的なことを協議したいと考えてこれらの項目を設定した。首長と教育委員会が協議、調整をするということで、決定をする場ではないが、やさしく、かしこく、たくましい大野人を育てていくことに思いを一つにして取り組んでいくことが、大切だと考えている。様々な点で意見をいただけるようお願いする。

## 3 協議

【市長】協議事項（1）小・中学校におけるいじめ、不登校防止対策について、事務局の説明をお願いする。

——<教育総務課長説明>——

【市長】ご意見、ご質問等があればお願いする。

【洞口委員】平成29年度の不登校数が小学校で3.9人、中学校で24.6人とは、1,000人あたりに換算した数字か。

【教育総務課長】そうである。小学校では児童数1,526人のうち6人、中学校では生徒数813人のうち20人が不登校である。小・中学校の合計では児童生

徒数 2, 339 人のうち 26 人が不登校であり、1, 000 人あたりに換算すると 11.1 人である。

【洞口委員】いじめの定義は、資料に記載のとおりか。

【審議監】そうである。以前は、継続的という文言が入っていたが、現在は、その時点で、いじめられている側が心理的、物理的な苦痛を感じていれば、いじめとして認知すべきと定義が変わっている。ちょっとした「からかい」であっても、いじめとして認知することで、子どもたちを注意深く見守っていくことが大切であるという国の考え方にに基づき、大野市でもそのように取り組んでいる。

【教育長】県によって認知件数が極端に異なっており、いじめと認定する基準が非常に曖昧だということが問題である。大野市教育委員会では、市としての基準をしっかりと定め、きめ細かく子どもたちを見ていくための検討を行っている。

【市長】私が子どものころは、友達同士があだ名で呼び合うということは普通にあったが、現在は、男女関係なく「さん付け」で呼び合っている。そのような中であだ名で呼ぶことがあると、それがいじめになってしまうのか気になるが、そのようなことも検討しているのか。

【教育長】小さなけんかや、あだ名で呼び合うというようなことであっても、そのことで、子どもがどのような傷を負うのか、対等な立場であり問題がないのかということ、その背景を含めて周りの大人はしっかり見ていくことが重要であると考えます。そのためにも、大野市としての基準をしっかりと定め、学校間でのバラつきがないように取り組んでいきたい。

【市長】本市では、スクール・ソーシャル・ワーカーの活動件数が多いと聞いている。本人が意欲的であるということもあると思うが、もしかすると市の中に難しい課題があるのではないかと思う。

【清水委員】スクール・ソーシャル・ワーカーは何人いるのか。連絡があれば各学校に出向くということか。

【教育総務課長】1 人である。要請があれば学校に出向くこともあるし、家庭に出向くこともある。

【教育長】学校は、家庭の一定の範囲には踏み込めないが、スクール・ソーシャル・ワーカーは、家庭のいろいろな問題に関わり、相談に乗りながら問題解決に取り組むという強みがある。青少年教育センターで週 2 回勤務している。教育センターには、いじめ・不登校相談カウンセラーも 1 人勤務している。カウンセラーは子どもや保護者の悩みごと相談を主に担い、スクール・ソーシャル・ワーカーは家庭に入って問題を解決するという役割を主に担っている。

【市長】教員が家庭の問題解決に多くの時間を割かれると、通常の教育業務に支障が出るので、大変助けになっていると聞いている。

【清水委員】教員が家庭の問題に深く関わるよりは、専門家はその役割を担う方が、家庭としても受け入れやすいと思う。

【麻生委員】同じ人が継続して関わるという信頼関係も重要である。

【市長】いじめ、不登校に関連して、虐待のテーマに移る。先日、千葉県野田市において小学4年生の児童が父親からの虐待の末、死亡するという事件が起きた。このような悲しい事件が二度と起きないように、関係機関の連携が不可欠であると考えている。本市の現状や取り組みについて、事務局の説明をお願いします。

——<福祉こども課長説明>——

【市長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【洞口委員】虐待と不登校との関連があれば教えてもらいたい。

【審議監】不登校の原因として、家庭での虐待が影響していると考えられるケースがある。各学校から児童虐待防止に係る定期的な情報提供報告書の提出を受けているが、その中でも不登校の児童生徒がいる。

【教育長】虐待を我慢している子どもは、認知件数以上にいると考えられる。周囲の大人や教員は、数に表れていない辛い思いをしている子がいるのではないかと、いうことを心に置いて見てあげないといけないと思う。

【麻生委員】いじめや虐待は絶対にダメだという教育をしていると思うがどうか。

【教育長】いじめや虐待を受けた子どもは、人格や脳にダメージを受け、コミュニケーション能力や、人間関係をうまくつukれないということ等に表れる。大人がこのようなことを認識し、子どもたちにいじめは絶対にダメだということを言い続けなければならない。また、自分に自信がある子どもは、人を傷つけようとはしない。子どもたちが褒められたり、愛されたり、自分の居場所があるとしっかりと感じられるよう、良い意味で自分に自信を持たせる教育が大切だと思う。

【關委員】いじめや不登校の兆候が見られた時点で、早期に対応するということは重要であると思う。

【市長】関係機関が連携し、いざというときは、すぐに対応できる体制をつくっていききたい。

小・中学校におけるいじめ、不登校防止対策については、以上とする。

【市長】協議事項(2)教職員の働き方改革について、事務局の説明をお願いします。

——<審議監説明>——

【市長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【洞口委員】働き方改革の目指すところは、勤務時間の短縮だけではなく、教員の教育業務や生徒指導に掛ける時間を増やすことにもあると聞いている。教員の勤務時間だけではなく、児童生徒にもゆとりをもたせて、他のことにチャレンジできる時間をもたせてもらいたい。

【市長】市では毎週水曜日を定時退庁の日と定め、職員のリフレッシュや自己啓発、地域活動の時間に充てるように取り組んでいる。

【清水委員】中学校の教員の負担が大きいようだが、中でもスポーツ関係の部活動を担当している教員の負担が大きいのか。

【審議監】吹奏楽部等もあるのでスポーツ関係だけではない。

【清水委員】学校外での活動や休日の活動が長時間勤務に影響しているのではないか。早く帰りたいと思っても、ベテランの教員が残っていると帰りにくい雰囲気があるのではないかと思う。漠然と学校に残ることはせず、意識を変えて効率的に業務を行ってもらえると良いと思う。

【審議監】単に早く帰るというだけでなく、教員自身がゆとりを持って笑顔で質の高い授業を行うための業務改善だと考えている。目的をしっかりとらえながら進めていく必要があると思う。

【麻生委員】働き方改革は雇い方改革である。ノー残業デーやバースデイ休暇等の具体的な施策を行い、労働環境を整えてもらいたい。

【關委員】教員がゆとりを持つことが、質の高い教育につながると思う。

【教育長】4年程前に、新採用の教員から「部活動の後に、午後8時から招集されてテストの採点の摺り合せをするというような業務のやり方はおかしい」と指摘され、そこから学校職場の課題や困っていることを掘り起こし、どう解消していくかということ、教員みんなで話し合ってきた。すべて解決したわけではないが、教員の働き方改革を表立って話し合えるようになったことはありがたいと思う。

新年度からは、確かな学力を育む学校づくり、安心して通える学校づくり、働き方改革の3本柱で、校長会と教育委員会がしっかり話し合いをして指針や方針を決めていこうと考えている。

【洞口委員】校長会との会議で、働き方改革に取り組んだことで、学校内の整理整頓が進み、消耗品を大切に使うようになったという効果も聞いている。

【市長】教職員の働き方改革については、以上とする。

【市長】協議事項（3）その他について、何かあれば願います。

【教育委員会事務局長】昨年8月10日に開催された第1回総合教育会議において、学校再編、文化会館の整備について、市長の考えをお聞きした。その後の取り組みについて報告する。

8月27日の定例教育委員会で「教育委員会としても学校再編、文化会館ともに見直しの方向で進める」と合意している。

学校再編については、学校再編や校舎の長寿命化改修を行っている自治体に2回の視察研修を行った。また、意見交換会の持ち方やスケジュールの見直しに向けた準備を行ってきた。新年度には、地域の方々のご意見をお聞きしながら、慎重に、丁寧に、着実に進めていきたいと考えている。

文化会館の整備については、基本計画策定委員会を3回開催し、財政面を考慮し、

座席数を含めた施設規模を縮小する見直しを行った。文化会館整備基本計画案については、2月1日から14日までパブリックコメント手続を行い、住民説明会を3回開催して、市民の皆さまのご意見をお聞きした。本日開催の第4回基本計画策定委員会を経て、2月26日に開催する定例教育委員会に、議案として提出する予定としている。

#### 4 閉会

【市長】 これをもって、第2回大野市総合教育会議を閉会する。

午後2時50分終了